イノッチファームでシェアリングネイチャー　ＮＯ128　　2020.10.11

〈タネの季節〉

　少しずつ秋が深まり、野菜や果物たちがいよいよ最後の仕事に取りかかる時がきた。彼らにとって、この作業こそが最大にして最終の目的。この目的のために花を咲かせ鳥や虫を呼び、雨風から身を守ってようやくこの時を迎えた。そう、子孫を残すためのタネが熟す時がきた。キュウリやゴーヤはすでにその役目を終え、静かに大地に帰ろうとしている。今は、オクラやモロヘイヤ、ニラ、トロロアオイ、シソなどがその時を迎えている。人の手で、何代にもわたって次々に改良されながらそれでも己の中にある“芯”の部分は頑なに守りながら、結局長い間子孫を残し続けているしたたかさ。人の手を借りて、いや利用して、しっかりと遺伝子を残そうとするその生きざま、操られているのは人の方かもしれない。

〈オクラ〉

〈モロヘイヤ〉

〈ニラ〉

〈トロロアオイ〉

〈シソ〉